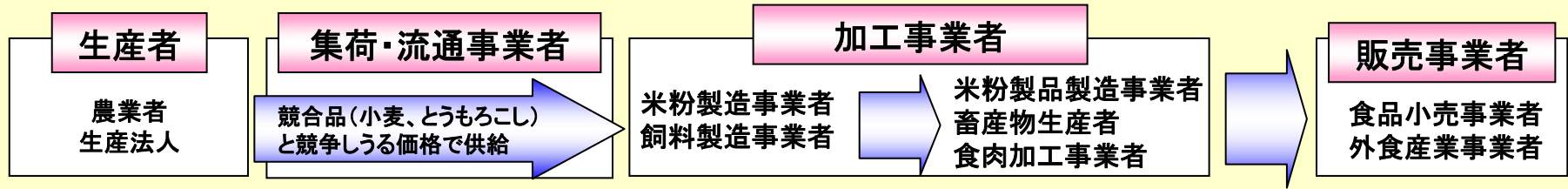


米粉・飼料用米生産・流通ビジネス支援事業のイメージ

関係者が連携して事業を展開



支援措置

生産・流通・加工・販売に係る雇用に対する助成

生産製造連携計画の認定者が、労働者を雇い入れて事業を行う場合、**雇用に係る経費を助成**

その他の関連措置

生産者に対する支援

米粉・飼料用米等の作付拡大に対し助成
(支援水準)
毎年 5.5万円/10a

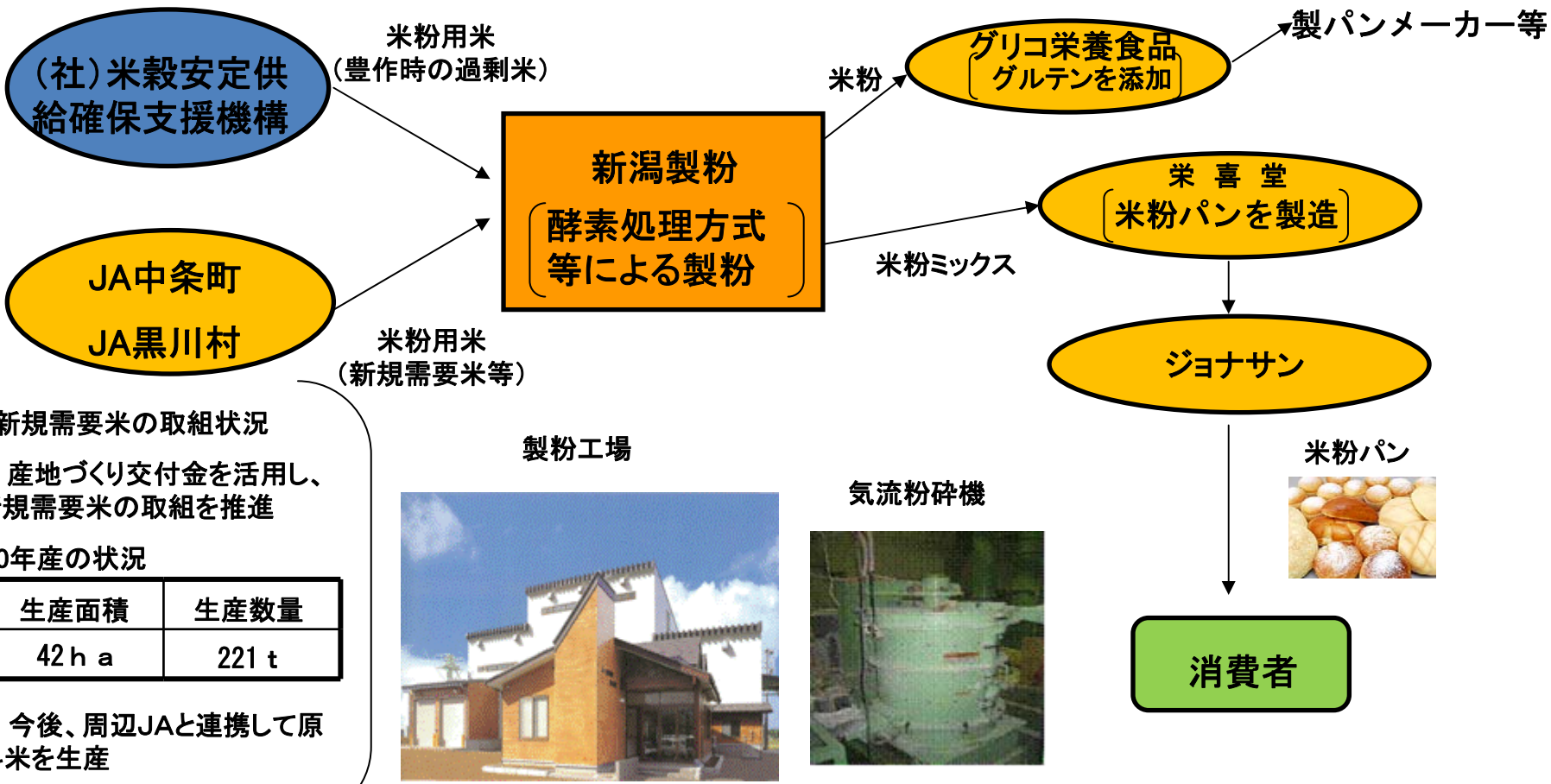
生産者、集荷・流通事業者、加工事業者等が整備する機械・施設等に対する支援

製粉施設、飼料製造施設等に対し助成
(支援水準)
事業費の1/2を助成

地域の雇用や農畜産物の生産・販売額が増加し、地域の活性化を実現

○ 米粉の先進事例（新潟製粉・新潟県）

- 米の用途拡大による消費拡大と水田の有効利用を目的として、平成10年から操業を開始。
- 二段階製粉方式や酵素処理製粉方式により、現在、年間4,000トン程度の米粉を生産。
- 米粉ミックスを栄喜堂が購入し、米粉パンとしてジョナサンが販売。
- 新潟県胎内市において、産地づくり交付金を活用し、新規需要米の取組を推進。



○ 新規需要米の取組状況

- ・ 産地づくり交付金を活用し、新規需要米の取組を推進

20年産の状況

生産面積	生産数量
42ha	221t

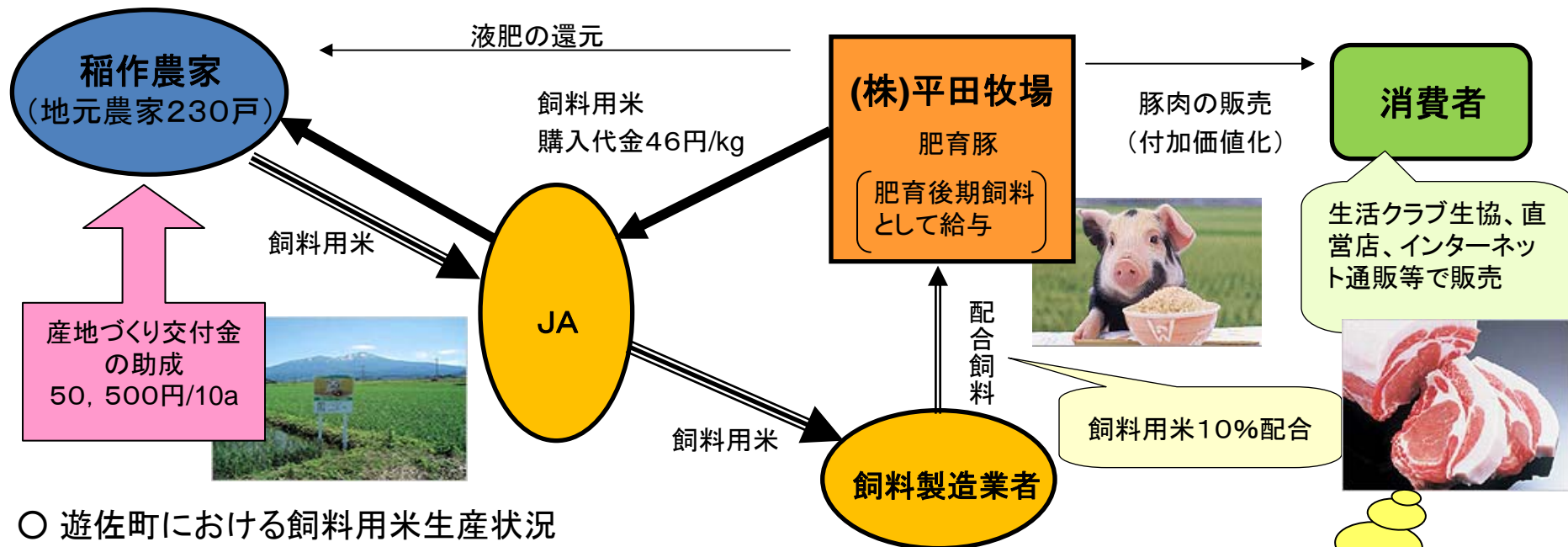
- ・ 今後、周辺JAと連携して原料米を生産



消費者

○ 飼料用米の先進事例((株)平田牧場・山形県)

- 食料自給率の向上、農地の有効活用と水田の多面的な機能による環境保全を目的として、平成16年に山形県遊佐町の「食料自給率向上特区」の認可取得し、組織された「飼料用米プロジェクト」に参画。
- 遊佐町での作付面積は、16年の7.8haから19年は130haに大幅に拡大。
- (株)平田牧場が飼料用米を買い取り、自社の肥育豚の飼料に輸入トウモロコシの代わりに、飼料用米を10%配合。
- 現在、生産された豚肉は「こめ育ち豚」として、生活クラブ生協などを通じて販売。



○ 遊佐町における飼料用米生産状況

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度(見込み)
作付面積 (ha)	7.8	19.4	60.5	130	170 (その他酒田市で150ha)
生産量 (トン)	30.3	107.7	347.3	691.2	
平均単収 (kg/10a)	388	555	574	530	

飼料米の給与による肉質への影響

- ・ 筋肉内脂肪の増加。
- ・ 肉が柔らかくなる。
- ・ 脂肪融点の低下。 等